

Justace流 How to make Rods?

- ★注意1★ 製作工程上、刃物や火気等危険物を使用しますので、これらのお取り扱いには十分ご注意ください。
- ★注意2★ これらの作り方はあくまでも弊社が提案するものであって、その他、多数作り方はございます。

ジャストエースが皆様にロッドを作る楽しさや、何が必要かなど、ロッドを作っていく上でのノウハウを簡単にご紹介させていただきます。

用意する物

- ロッドパーツ(ブランク等) ■エポキシボンド(2液性) ■瞬間接着剤 ■エポキシボンド用練り台(メモ用紙等) ■紙ヤスリ ■金ヤスリ(棒) ■アルコールランプ(ライター可) ■定規
- スレッド用抜き糸(ナイロン糸1~2号) ■カッターナイフ筆(コーティング用) ■ロッドメーカー ■ホットグルー ■調整用品(アーバー又はたこ糸1mm太以下) ■マスキングテープ
- ティシュペーパー ■ペンチ

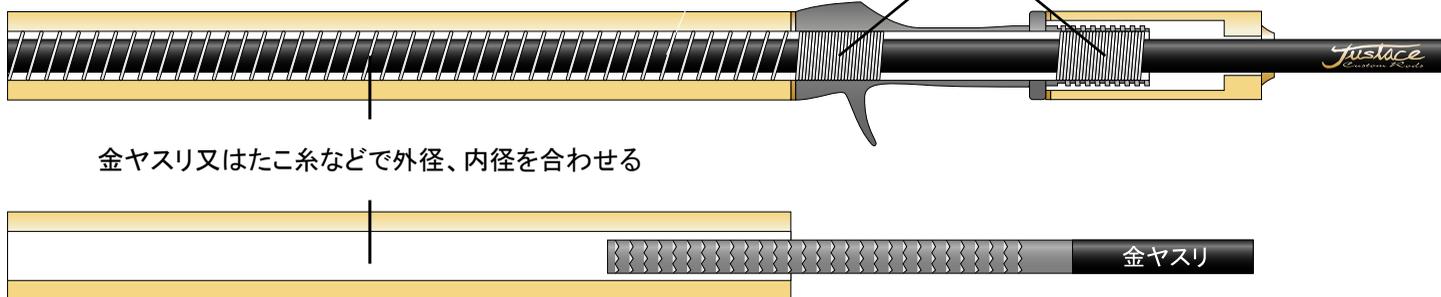
グリップを削る(必要な場合)

既にグリップの内径や長さが合っている場合はこの作業は不要です。グリップを自分の好きな長さに切り、ブランクの先から通し、グリップの内径をヤスリで調整していく。グリップの内径がブランクより太い場合や、ロッドテーパーがきつく、グリップの片方だけが隙間がある場合は、細いたこ糸又はマスキングテープ等でブランクの外径を調整していく。リールシートも同様、リールシートの内径に合わせてブランクをたこ糸又は、アーバー等で調整する。

アーバーとはコルクやカーボンなどで作られた円筒状のパーツです。アーバーの外径は各リールシートの内径に合わせており、アーバーの内径のみをブランクの外径に合わせてヤスリ等で削って調整するだけです。しかし、ブランクとリールシートの隙間があまり無い場合は、たこ糸を使用する事をお勧めします。アーバーの場合、アーバーが薄くなり、割れやすくなりますので慎重に行ってください。

ワンポイントアドバイス!
グリップ内径を削る場合、ブランクがグリップ内のどここの部分に当たっているかを確認する為、グリップをブランクに差し込んで回転させると摩擦でブランクに当たっている所が熱くなりますので、その部分を少しずつ削ればグリップ内径がブランク外径にきれいに合います。

たこ糸又はアーバーなどで調整して固定する。
(たこ糸で調整する場合は瞬間接着剤でガチガチに固めて固定する)



注意点1: ブランクの外径を調整する際、たこ糸を使用する場合はたこ糸を瞬間接着剤でガチガチに固める。

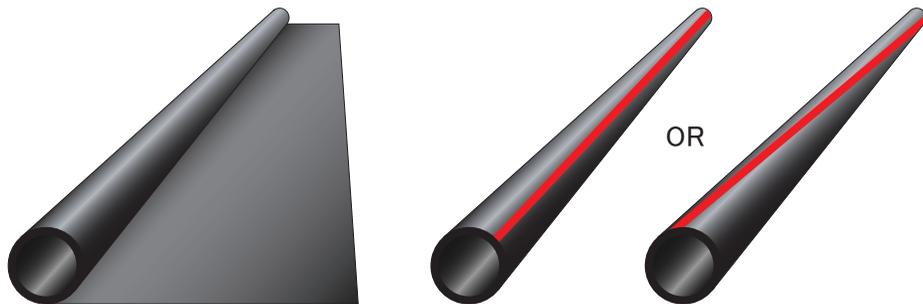
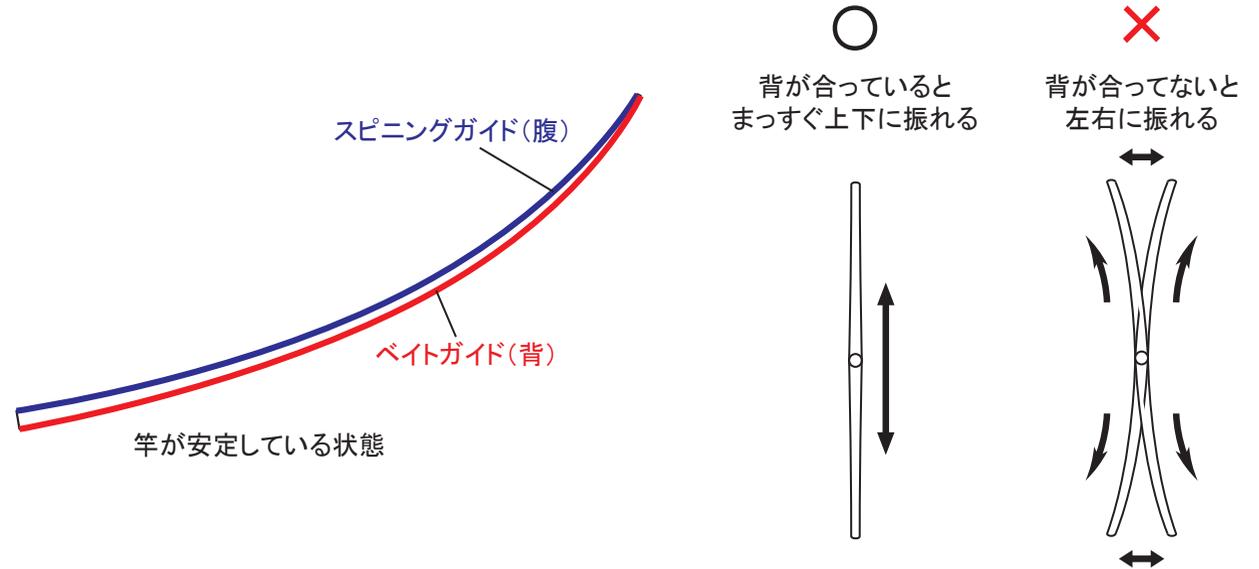
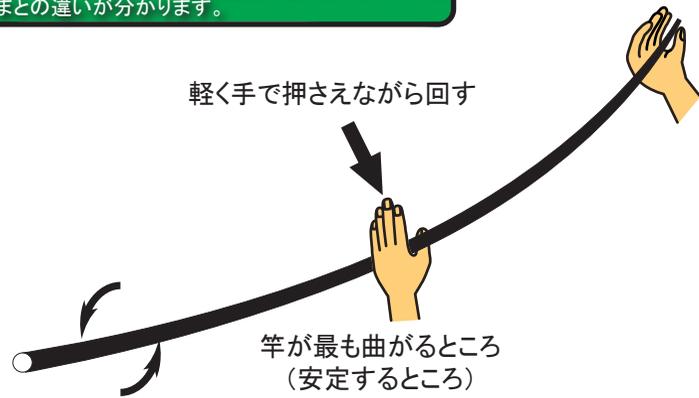
注意点2: 簡単にグリップがブランクに入る様ではダメ。又、きつすぎるとボンドがすべて外へ押し出されてしまいますので適度なサイズに調整して下さい。

ブランクの向きを出す

ブランクには向きがあり、最も曲がる筋と曲がり難い筋があります。それを背(スパイン)と腹と言います。なぜ向きを出さなければならないかというと、ロッドを振った時、向きが合っていないと竿は軟らかい(最も曲がる)方へ曲ろうとする為、ロッドが左右にぶれてしまい、ルアーの飛距離、コントロールに影響が出ますし、ロッド本体の強度も弱くなってしまいますからです。そこで、ガイドとリールシートを取り付ける前にこの背(スパイン)を出す必要があります。この時点で背の方向を確認し、TOPガイドを付けるのもOK、もしくはテープをブランクに張りその上にマークするのもOK。又、ガイドをつける際スピニングは腹側ベイトは背側と言うように、それぞれつれる場所が異なりますのでご注意ください。

まず、竿尻を床など平で硬い所に置き、片手で竿を支えるように竿先を手のひらに置き、もう一方の手の平で軽く竿を押さえながらその手で竿を回す。その時、竿が安定するところがあり、地面に面したところが背(スパイン)になります。

ワンポイントアドバイス!
 スパインを右の図のように出す時にリアグリップをあらかじめ固定もしくは仮止めをして、竿を回転させればスパインの位置がより分かりやすくなります。まずはお手持ちの竿でお試し下さい。ブランクのままでの違いが分かります。

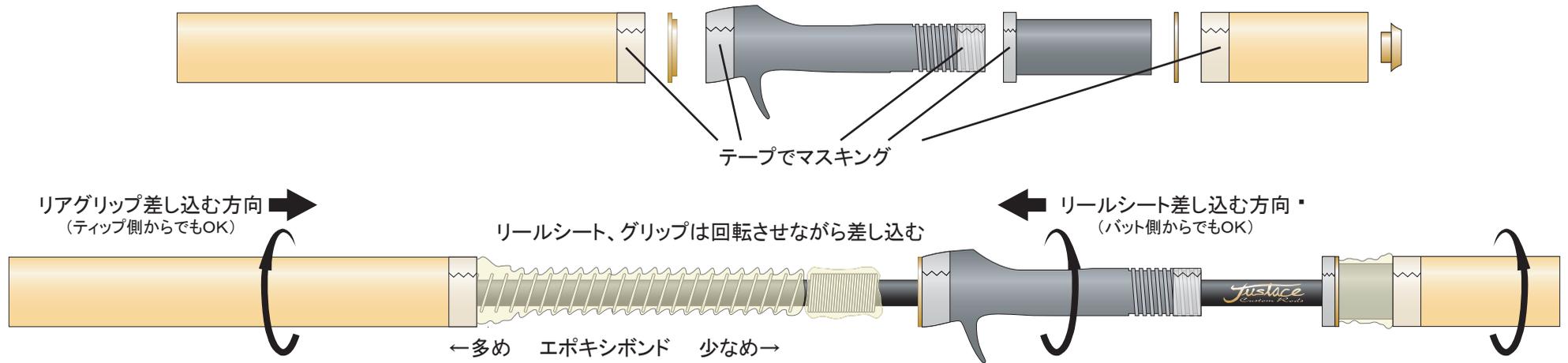


スパインとは...

ブランクはカーボンシートから出来ており、裁断パターンによってアクション等を変えます。そのカーボンシートをマンドレルと言う芯金に巻き付けて円すい状に仕上げます。その際に巻き終りの部分が巻き始めの部分と重なり合っ分厚くなったところが出来てしまいます。そこがスパインになります。しかし巻き終わり部分が必ずしもまっすぐとは限りません。そこでアクションに応じてスパインを出します。例えばファーストアクションのブランクであればティップ側、レギュラーアクションであれば少しティップよりバット側という様にブランクによってスパインを出せばより効果的です。

グリップ&リールシートを固定する・

③でスパインを出した後、エポキシボンド付着防止の為、グリップ&リールシートの各サイドにマスキングテープ等でマスキングする。エポキシボンド(2液)を練り台の上でよく練り、それをブランクに塗り、グリップ&リールシートを回転させながら差し込み、スパインを間違えないように固定する。この際、エポキシボンドは差し込む方向側に多めに塗り、はみ出た分は、すばやくティッシュ等で拭き取り、マスキングテープをはがし硬化するまで放置します。

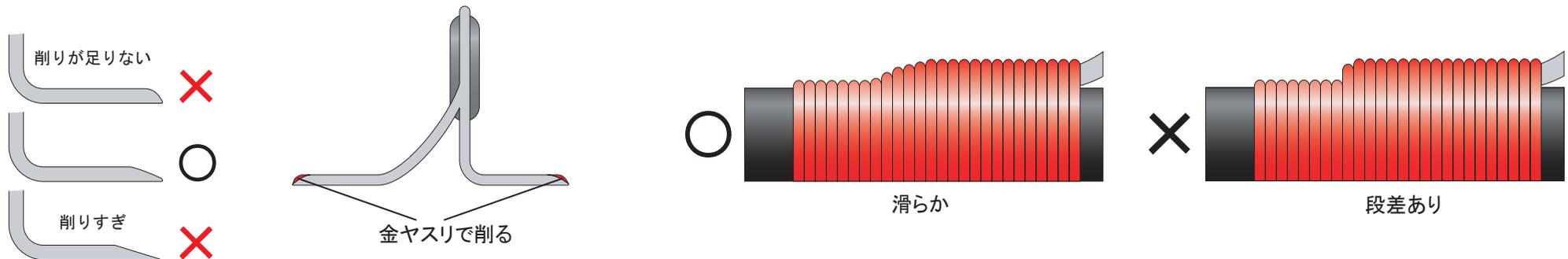


注意点1: エポキシボンドは混合後、硬化が始まるのでブランクのスパインを間違えない様にする。一度、硬化するとやり直しは不可能です。

ガイドを巻く

さて、皆さんがもっとも難しいと思われるのがガイドの固定です。なにが難しいかと言うと、ガイドをまっすぐブランクに合わせる事です。ブランクは100%まっすぐという訳ではありません。いくらいブランクでも曲がってる事はありますし、もちろんブランクに目印がある訳ではありません。それをいかにまっすぐガイドを着けるかが難しいのです。そして、もう一つはスレッドを巻く事です。ブランクが太い部分に巻くのは結構簡単ですが、ティップ側に行くほどブランクは細くなり、最初はなかなかスレッドが止まらないので、スレッド巻きは根気強くする事です。それでは、さっそく着けていきましょう。まず最初にトップガイド以外のガイドの足を削ります。この作業はブランクとガイドの段差を無くし滑らかな状態にする為です。そしてトップガイドをつける(③でもうすでに付けてる人は不要)。ホットグルーをライターで溶かしブランクの先につけ、すばやくトップガイドを差し込みます。もしまっすぐ着かなくても大丈夫。ライターで軽くトップガイドをあぶれば簡単に取り外す事ができ、何回でもやり直す事ができます(※火傷に注意)。次に2番ガイドの位置を決めます。位置が決まれば、セロテープ又はホットグルーで仮止めし、スレッドを巻いていきます。これを繰り返していきます。全てのガイドを巻き終わってからガイドがまっすぐになっているか確認する。この時、多少ずれていても、ガイドを動かす事が出来ます。*

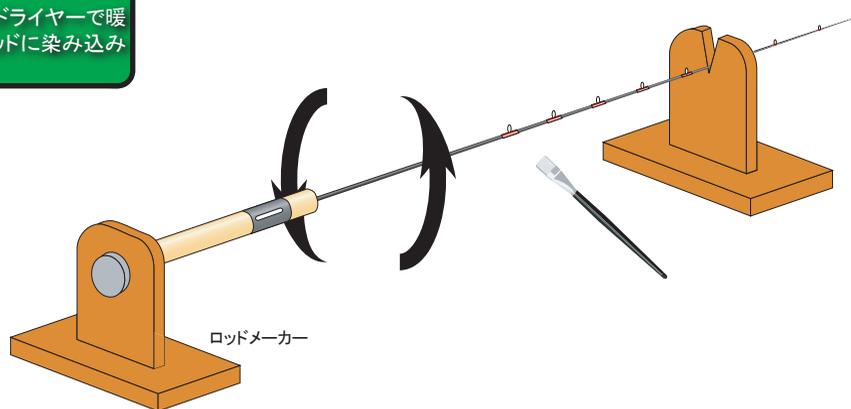
※スレッドの巻き方は別ページをご覧ください。



ガイドをコーティング

ロッドを地面と水平になるようにロッドメーカーにセットし、回転させながら筆でエポキシコーティング剤を薄く均一に塗っていきます。エポキシが硬化するには湿度、室温によって変わりますが約半日かかりますので、2回目以降のコーティングは1日経ってからするのをお勧めします。冬や梅雨など寒い時や湿度が高い時期は硬化するのに1日かかります。

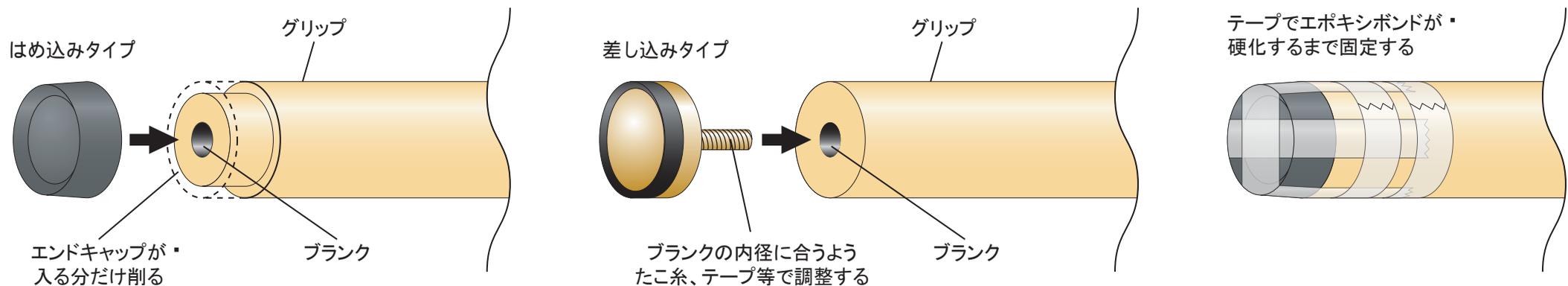
ワンポイントアドバイス!
エポキシを塗る際、コーティング剤をドライヤーで暖めると気泡が抜け、エポキシがスレッドに染み込みやすくなります。



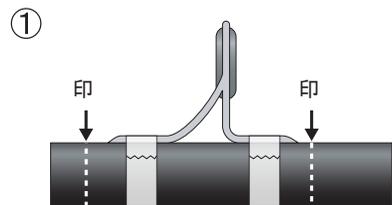
エンドキャップを付ける

最後にエンドキャップを付ける。エンドキャップは大きく分けてはめ込むタイプと差し込むタイプがあります。まず、はめ込むタイプはエンドキャップが合うサイズにグリップを加工し、グリップ側にエポキシボンドを塗りエンドキャップをはめ込みます。はめ込んだ後、すばやくはみ出したエポキシボンドをふき取り、テープ等でエンドキャップが外れないようにボンドが硬化するまで固定します。

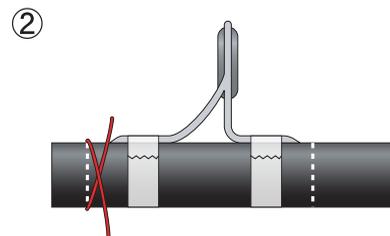
差し込むタイプは、はめ込むタイプより簡易に装着できます。エンドキャップの差し込む部分をブランクの内径に合うよう調整します。そして、差し込む部分にエポキシボンドを塗りブランクに差し込みます。後は、はめ込めるタイプ同様、ボンドをふき取り、テープ等で固定します。当社のエンドキャップ“オンスエンドキャップ(P24)”とオニメ又はアルミナットを使用する場合は、ナットをブランク内にエポキシボンドで固定します。



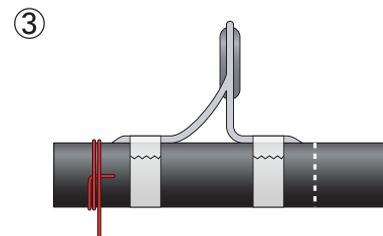
スレッドの巻き方



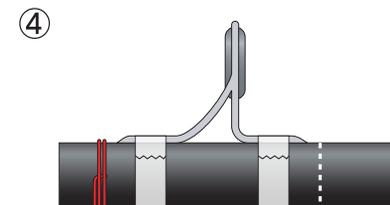
① テープで固定し、巻き始めの所に印をつける。



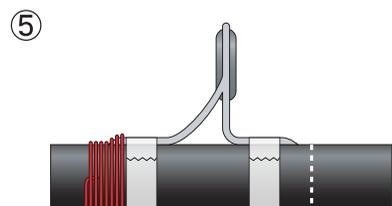
② 印の位置にスレッドを交差させる。



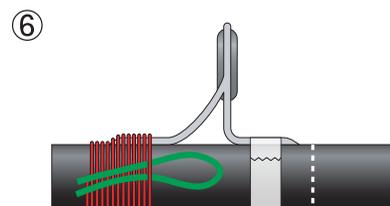
③ 巻き始めはスレッドが動かない様指で押さえながら4、5回巻き、スレッドを強めに引っ張って糸端を固定する。



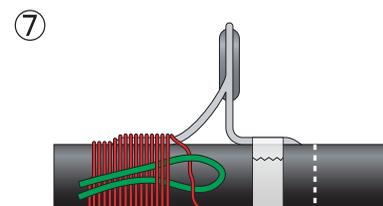
④ はみ出している糸端をカッターで切る。



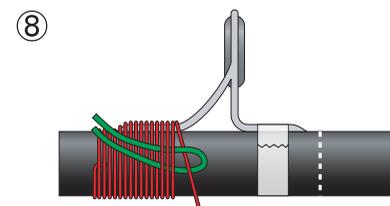
⑤ スレッドにすき間があれば爪で押して詰めていく。仮止めしていたテープを取り巻いていく。



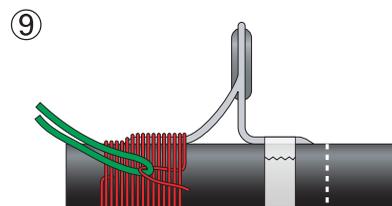
⑥ あと5、6週の所でスレッド抜き用のナイロン糸を図の様に輪にしてはさみ込む。



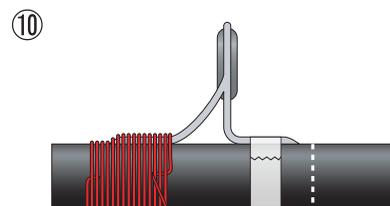
⑦ 糸端を輪に通す。



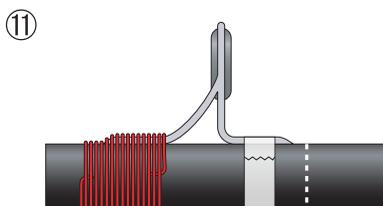
⑧ スレッドがほぐれない様に軽く引っ張りながら抜き輪を抜く。



⑨ 抜き輪を一気に引き抜く



⑩ 糸端を引っ張りながら糸を切る。



⑪ 反対側も同じようにする。

ワンポイントアドバイス!
1本足ガイドの軸の裏側までスレッドを巻き、コーティングすればガイドの抜け防止になります。

注意点1: ④スレッドをカッターで切る際ブランクに傷をつけないようにする。

注意点2: ⑩で糸端が出ているとエポキシコーティングが固まった際に突起物の原因となります。突起物がある場合は1回コーティング後、カッターで切り落とせば大丈夫です。